

あさお市民活動
レポート

発行元 認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター

あさお ふれんず

Asao friends

8
2022



麻生区区制40周年記念
「冠」事業

「やまゆり」の管理・運営に参加しませんか！

ボランティアスタッフ 大募集

運営スタッフ

平日の午前または午後、月3回程度の窓口対応業務を2人一組の当番制で担当しています。
今年度の募集期限は9月26日(月)です。



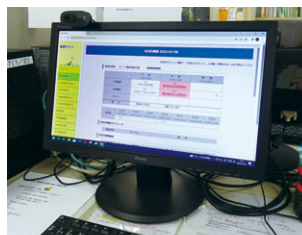
あさお区民記者

あさおふれんず、やまゆりニュースなどの広報紙の発行作業を担っています。区内で活動している団体への取材や記事作成を行います。随時募集中です。



ICT/HP 委員会

業務の情報化推進を目的に、業務システムやホームページの構築・運用を行っています。随時募集中です。



やまゆりテック

イベントの空間演出を提案し、音響・効果音・照明・舞台設備の操作やサポートを行います。また、撮影した映像の編集を行い館内で利用団体の活動紹介も行っています。随時募集中です。



運営スタッフの
募集要綱はこちら



います。

運営スタッフ以外は随時募集しています。

ホームページやチラシをご覧の上
応募してください。

随時募集しています。

ホームページやチラシをご覧の上
応募してください。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

随時募集しています。

「やまゆり」の運営は
ボランティアの皆さんの力で
なりたっています

地域住民の皆さんに親しまれて
いる麻生市民交流館やまゆり。「や
まゆり」の運営はボランティアの皆
さんの力でありたいと思っています。い
ろんな場面でサポーターとして活
躍されています。

「地域コミュニティに貢献したい」
「自分の技術・知識を活かしたい」
と考えている方は、是非参加してく
ださい。

運営スタッフは毎年募集しており、今年度は応募期限が9月26日(月)です。応募者への説明会を10月1日(土)10時～12時に「やまゆり」で実施します。

ホームページやチラシをご覧の上
応募してください。

随時募集しています。

一人で悩まず、みんなでつながろう

Link mama

「ママとママ、ママと地域を繋ぐ」をモットーに掲げ、その名もずばり「Link(つなげる) mama」。子育てに追われて悩みがちな若い母親たちに「一人で悩まないで」と呼びかけ、みんなでつながるための交流や学びの場をつくっている会だ。

自らも産後うつを経験した永井和美代表が「子育てママにはリフレッシュの機会が必要」と思い立ち、4年前に立ち上げた。活動の柱は、保育つきワークショップと、2か所のこども文化センターで開く地域子育て支援センターの運営(川崎市の委託事業)。

メンバーは、ワークショップや講座に参加するマナビーママ、ワークショップブ路店や講座の講師を務めるティーママ、イベントや支援センターで子どもの世話をするシッターママから

成る。

保育つきワークショップは女性限定で、マッサージから幼児用の歯固めづくりまで、さまざまな体験を楽しめる。子育て支援センターは、就学前の子どもと父母、祖父母が対象で、千代ヶ丘と柿生で週3回ずつ開き、お話し会などのイベントも。いずれも、子連れでも気兼ねのない「つながり」の場所だ。

このほか乳幼児のママ向けの防災啓発活動や、企業とのコラボ講座も。「この活動をきっかけとして、新しいつながりができていくのを見るのが楽しい」と永井代表。フラワースクールも開いているエネルギーシシユな代表は「もっと『つながぎ』を広げていきたい」と意欲的だ。

取材・文 区民記者 佐藤次郎



保育つきワークショップはいつも盛況
(Link mama提供)



代 表: 永井和美

連絡先: <https://link-mama.jimdosite.com/>

設 立: 2018年

会 員: マナビーママ109名、ティーママ24名、シッターママ5名

会 費: マナビーママは登録無料。ティーママは年会費5000円

活動日: 保育つきワークショップは2カ月に1回程度。地域子育て支援センターは、千代ヶ丘が火水木、柿生が月金。いずれも9時30分から12時30分

場 所: 保育つきワークショップは主として「しんゆり交流空間リリオス」

セピアカラーで描く焼き絵はいかが

しまりすアートクラブ



緻密でリアルな白頭鷲(太田先生の作品)黄色のみ色付け

麻生市民館アートギャラリーでの作品展で、木板を焼いて描いた作品のでき栄えに目を奪われて取材した。ウッドバーニング(焼き絵アート)は、電熱ペンを使って木板を焦がし、絵や模様を描く技法。色をつけることもある。描く線と濃淡に応じてペンの太さと温度設定を変える。

図案は原画と板の間にチャコペーパーを挟んでなぞって転写するので、

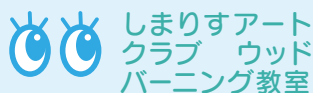
デッサンの技術は不要。2ヶ月ほどで1つの作品を仕上げるができる。この道30年で、日本ウッドバーニング協会認定講師の資格を持つ太田行英(やすひで)さんが指導してくれるので安心だ。基本となるのはグラデュエーションの技術。いかにムラなく焦がせるかが作品のでき栄えを決めるので、熱意と根気が欠かせない。板は木目が綺麗な桐(しな)ベニアを使う。おもな道具は電熱ペンで、1万6000円ほどする。個人差はあるが、1年である程度は描けるようになるということ。

作品展は夏、冬にしまりすホールで、年1回麻生市民館アートギャラリーで行う。活動終了後にはお茶を楽しむ気さくな会だ。作品展ともども一度訪ねてほしい。

取材・文 区民記者 中島久幸



作品を胸に自信に満ちていた
(後列右から2人目が太田先生)



先 生: 太田行英(やすひで)

連絡先: 044-988-9188(中村佳子)

設 立: 2003年4月

会 員: 6名(男性:3名、女性:3名) 50~70歳代

入会金: 1000円

会 費: 1500円/1回

活動日: 第1、第3火曜/月2回 13時~15時

場 所: しまりすホール(王禅寺東3-38-24)

H P: <https://musicwonderland.co.jp/>



センス煌めくアートな世界

登美子の部屋パッチワーク教室

いろいろな色や柄の生地を縫い合わせて作るパッチワーク。ヨーロッパ発祥、アメリカで発展したと言われている。パッチワークといえば、昭和世代はベッドカバーを思い浮かべがちだが、今回取材した「登美子の部屋」の作品は予想をはるかに超えてオシャレで多彩だった。

指導者は32年前から、当時日本では手に入りにくい素材などを使って、新しいパッチワークの研究を重ねてきたという。作品を見せてもらうと、その成果が今につながっているのだとつくづく実感する。そんな指導者の優れた感性や発想力に魅せられて、32年間活動を共にしている仲間がほとんどだという。長い付き合いのせいか会員同士和気あいあいでも楽しそう。

悩みは会員の高齢化。若々しく見えるが80歳を超える人が何人もいるそう。是非若い人たちと一緒に活動したいと語る。小物でも教えてもらえるので挑戦してみるのはいかがだろう。

取材・文 区民記者 名越耀子



教室風景。自由に席を移動して先生や友人に教えてもらえる

できあがった作品例。速い人は大作でも2日~2週間で仕上げるという



登美子の部屋
パッチワーク教室

代表：小黒登美子
連絡先：0422-70-3824
設立：1990年4月
会員：10名
会費：3000円（月2回）
活動日：原則として第2・第4水曜日
10時30分～12時30分
場所：麻生市民交流館やまゆり

写真を楽しみ、写真の違う世界を知る

しゃらく麻生



一人一人、ボードに自分の撮影した写真を並べ、講師から撮り方、絞りなど、講評を受ける

「しゃらく麻生」は、麻生市民館で開催された写真教室に参加したメンバーが集まり、1993年に設立された、30年近い歴史を持つサークル。

活動は月3回行われており、①例会と講師による作品講評会、②バスをチャーターしての野外撮影会（現在はコロナ禍のため中止しているが、関東・中信まで出かける）、③デジタルカメラ研究会（「デジタル編集ソフトによりレタッチの方法等を学ぶ」）

会長・運営委員は、毎年1月に行われる総会で選出される。現在、会長を務める佐藤彊介さんは、「私は、定年退職後の一つの趣味として写真もやってみようかと、2003年に入会。一眼レフを購入し、基本的なことを教えてもらうことから始めました」という素人からのスタート。現在、84歳。

「写真という表現方法の面白さは、作品発表や講評を受けるなか、段々と深まっていきました。また、いまはデジタル、撮った写真を編集できる時代、作品に仕上げる楽しさは格別なものがあります」（佐藤さん）

会員の一人、大熊勉さんも「2012年の入会時、撮った写真をフォトショップで編集し加工することを初めて習い、これは撮ることは別の面白さがある」と、写真の違う世界を知ったと語る。本会はこの頃、いち早くデジタルをスタートさせている。

また最近是一般に、スマホで撮影する人が増えており、「スマホの写真教室も検討中」（佐藤さん）とのこと。年に1回、展示会を市民ギャラリーで開催している。

取材・文 区民記者 神澤秀夫



しゃらく麻生

代表：佐藤彊介（きょうすけ）
連絡先：k.sato8951@gmail.com
設立：1993年
会員：15名（男性11名、女性4名）
会費：1500円/月
活動日：水曜日（月3回 13時～）
場所：麻生市民館・多摩市民館・野外撮影

パーキンソン病をご存知ですか ―リラの会あさお―



定例会でのリハビリ体操風景。距離は十分

「リラの会あさお」(以下「会」という)は、パーキンソン病(注)(以下「PD」という)の患者と家族の会である。会の目的は会員が、①安心して寛げる場所を作り、親睦を図る、②楽しく行えるリハビリを見つめる、③PDについて学び、また多くの方にPDを知ってもらい、気兼ねなく行動できるようにする、等である。

会員であり、事務局としても長年会を支えてきた金山郁子さんは「会は会員にとって貴重な存在だが、加齢、病状変化等により会員数は減っている。昨年、会の前身である『リラの会神奈川支部』を主導してきた田中みつるさんが退き、会の存否が問われました。辛い出来事でしたが、多くの方が存続を強く望み、また、今日

同席していただいた佐野操さんという貴重な理解者を得て、改称して交流・親睦の場として存続できました。本当に嬉しかったです」と振り返る。

佐野さんは、PDの方を会に送迎していたのをきっかけに、夫妻で会を支えている。「例会ではリハビリ、気楽なおしゃべり、歌やゲームを楽しんでいます。他方、体調あるいは偏見や好奇の視線が嫌で出席できず、会報を楽しみにしている人もいます。そうした会員のために、送迎、会報の封入・発送等の作業をお手伝いしてくれる方がいてくれたらとても嬉しい」と語る。

二人は、仮に会員が1人になっても、求められる限り活動を続けるという。その思いは、創設時から会を支えてきた高橋順子さん、山口睦子さんとも共通するようだ。



金山さん(左)と佐野さん(右)

リラの会あさお

代表: 小倉眞一郎
連絡先: Fax 044-966-2448(金山)
設立: 2021年4月(「リラの会神奈川支部」(2011年創設)を改称)
会員数: 16名
会費: 1000円/年(行事等は実費)
活動日: 毎月第3土曜日 13時~15時
場所: 麻生老人福祉センター(いきいきセンター)

取材・文
区民記者 仲原照男

(注)PDは、神経性・進行性の疾患で、震え、動作の緩慢化、前屈姿勢で歩幅が狭い、反射が鈍く転倒しやすい等のほか、意欲低下、認知機能障害等様々な症状が知られ、複合病態として認識すべきと提唱されている。60歳以上では発症率1%程度とされる(計算上では、麻生区に500人超の患者がいることになる)が、適切な治療を行えば、通常、発症後10年程度は普通の生活が可能で、平均余命も一般と比較して2~3年短いだけである。また、公的支援制度もある。(厚生労働省「パーキンソン病診断基準」及び(公財)難病情報センター「パーキンソン病(指定難病6)」等に基づき要約、加筆した。)

ふれんずの輪を広げよう

区民記者が、あなたの活動取材します!

活動を紹介
して欲しい

取材申し込み方法

応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤など麻生区に関わる方が活動に参加している。

申込方法

①団体名 ②代表者名 ③連絡先(電話・FAX・メール)
④活動内容(イベントの場合は開催日時・料金・内容)
をFAXまたはメールでご連絡ください。

イベントを
取材して!

あさお区民記者

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。原則、第2木曜日に『麻生市民交流館やまゆり』で編集会議を行っています。過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。



麻生市民交流館やまゆり

〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5

FAX 044-951-6467 MAIL info@asao-ku.net

お申込みいただいた内容については、編集会議で可否を検討したうえ、改めてご連絡させていただきます。

※選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、営利目的の団体・個人、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。